

# 郷土資料館の

# お宝探訪



## 道路の出発点となった「阿閉村道路元標」

×

郷土資料館の大事な仕事のひとつに、播磨町の歴史を彩る様々な資料の収集や保管があります。本年度は、数ある資料館の収蔵品のうち、代表的なものを紹介していきます。

播磨町郷土資料館 ☎079(435)5000

郷土資料館の玄関ポーチの向かって右側に解説板とともに、幅約25センチメートル四方、高さ約60センチメートルの円頭形をした古びた石柱が置かれています。その正面をよく見ると「阿閉村道路元標」という文字が刻まれているのがわかります。

の整備が優先され、道路網の整備は進まなかったようです。

阿閉村といったところの初代の村役場のあった本荘字東所（現本荘2丁目付近）に、この道路元標が立てられていました。ここに村役場が置かれていたのは、阿閉村が誕生した明治22（1889）年から二代目の村役場に移った大正15（1926）年までの間のことで、今は静かな住宅地となっているので、その面影はありません。

江戸時代には「お江戸日本橋」が、東海道五十三次など江戸と各地を結ぶ五街道の起点となっていました。明治時代になっても、江戸時代の起点がそのまま引き継がれ、東京・日本橋と京都・三条大橋の橋の中間が諸街道の起点として定められたそうです。さらに、近代化を進める明治政府は、明治18（1885）年に、日本橋を起点として各地への国道網を定めました。ただし、明治時代は鉄道網

の整備が優先され、道路網の整備は進まなかったようです。

阿閉村といったところの初代の村役場のあった本荘字東所（現本荘2丁目付近）に、この道路元標が立てられていました。ここに村役場が置かれていたのは、阿閉村が誕生した明治22（1889）年から二代目の村役場に移った大正15（1926）年までの間のことで、今は静かな住宅地となっているので、その面影はありません。

どこにあるのか、「ご存知ですか？」

当時の阿閉村（現播磨町）でも今から90数年前の大正9（1920）年に、道路の出発点となる石柱（元標）が立てられました。

戦前、わが国の道路網整備事業の一環として建てられた道路元標ですが、戦後は道路の拡張や市町村の合併などによって、多くは忘れられた存在になってしまいました。風雪に耐えて、わが国の近代化の証拠として残った道路元標は、道路プロジェクトを支えた歴史的な文化遺産として、今は郷土資料館の玄関ポーチに場所を移して余生を過しています。



▲道路元標が設置されていた初代阿閉村役場付近



資料館玄関に移されている「阿閉村元標」

江戸時代には「お江戸日本橋」が、東海道五十三次など江戸と各地を結ぶ五街道の起点となっていました。明治時代になっても、江戸時代の起点がそのまま引き継がれ、東京・日本橋と京都・三条大橋の橋の中間が諸街道の起点として定められたそうです。さらに、近代化を進める明治政府は、明治18（1885）年に、日本橋を起点として各地への国道網を定めました。ただし、明治時代は鉄道網

の整備が優先され、道路網の整備は進まなかったようです。

阿閉村といったところの初代の村役場のあった本荘字東所（現本荘2丁目付近）に、この道路元標が立てられていました。ここに村役場が置かれていたのは、阿閉村が誕生した明治22（1889）年から二代目の村役場に移った大正15（1926）年までの間のことで、今は静かな住宅地となっているので、その面影はありません。

※今月は特別展開催期間中（10月7日～12月2日）ですので、館内での展示はありません。資料館ポーチ脇に展示していますので、ぜひ本物を見に来て下さい。

播磨町郷土資料館 館長 井守徳男

町の人口 9月1日現在

(住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,745人(+5人)

男…17,046人(-6人)

世帯数…14,115世帯 (-1世帯)

女…17,699人(+11人)

